

その9

2011年3月の

「合歡の弧悲」



晝者咲 夜者戀宿 合歡木花 君耳將見哉 和氣佐倍尔見代

「昼は咲き 夜は恋ひ寝(ぬ)る 合歡木(ねぶ)の花 君のみ見めや 戯奴(わけ)さへに見よ」

(主人の私だけが見るものではない。下僕のそなたも一緒に見なさいな) 紀女郎(巻8・1461)

前回檀ふみさんが皇居に招かれお目にかかった美智子上皇后は、高校生時代に書かれた詩を元に「ねむの木の子守歌」を作詩されたことはよく知られているところである。この気品ある優しい子守歌は、梓みちよ、吉永小百合や外国人アーティストなど多くの有名歌手に歌われている。また、ちょうど1年前に亡くなられた宮城まり子さんが設立した「ねむの木学園」など、私たちは「ねむの木」と聞くと、眠りや優しさをイメージする。しかし、万葉集で1首だけ詠われている「ねむの木」の歌は、それとは全く違っていた。

先に紹介した梅花の歌の作者、紀小鹿女郎の名を知らなかった、と書いた。似た名前の紀女郎(きのいらつめ)は、私も好きな歌人でその名は知っていたが、実はこの二人が同一人物だったことが今回分かった。紀女郎は、大伴家持に12首もの恋歌を贈っているが、先の梅花の歌だけ「紀小鹿女郎」の名で、その他の歌はすべて「紀女郎」で表記されていたため気がつかなかった。そして、この紀女郎の「ねむの木の歌」は、私「万葉集宣伝係」が、現代の歌謡曲に改題してCDまで制作した、ある因縁のある歌だった。それだけに紀小鹿女郎こと紀女郎には愛着があったのである。

「日めくり万葉集」の選者の1人に、作詞家でプロデューサーの東海林良氏がいる。これまで4000曲以上の歌謡曲の作詩をしている。最近、40年前に渡辺真知子が歌ってヒットした「唇よ、熱く君を語れ」が、再びテレビCMでリバイバル、ACC賞や電通賞などいくつかの賞を受賞して話題になった。その東海林氏が、一番好きな万葉秀歌として、「万葉集の中で最も官能的な歌」と言って挙げてくれたのが、この歌だった。東海林氏は常々、「日本の艶歌の原点は、万葉集だ」が持論で、そこで、「日めくり万葉集」の選者をお願いしたのだが、この「ねむの木の歌」は、まさに「艶歌の原点」というべき恋歌だった。

年上の女が若い男を共寝に誘っている歌で、人妻の紀女郎が、当時まだ若くて、10歳ほど年下の大伴家持に向けて詠んだものだ（20歳近く年下という説もある）。ねむの木は、夜になると葉を閉じることから、前述した「ねむの木の子守唄」のように、眠りをイメージする花とされている。しかし、万葉集は違った。万葉集で「ねむ」はどう書いてあるか？漢字で、「合歡」である。もともと中国から入ってきたもので、その文字が示す通り、「歡びを合わせる」、つまり、「男女の交合」を象徴する花として詠われている。この歌の場合、男と女が戯れに詠っているともされるが、女が若い男を、戯奴（わけ）、つまり下僕（しもべ）と呼んで共寝に誘う、大胆にして官能的な歌と言って間違いない。

そこで、番組では、東海林氏に、ある意味とても現代的なこの歌を、さらに大胆に現代の艶歌に改題してもらうことにした。東海林氏は言う、「大体、今の演歌は、女の気持ちを、男の作詞家が、こういう女性がいてほしいと思って書いてますから、嘘が多いんです。ところが、この恋歌のように、女性側からストレートに、こういう投げ方をされたら、もしかしたら一番新しい流行歌になると、私は思います」。

「恋」を万葉仮名で書くと、「古非、古比、古飛、故悲、故非」などいろいろあるが、極めつけは「孤悲」……「孤（ひとり）悲しむ」。恋した時の心の内を、2つの漢字で見事に表現している。そして、できた歌が、「合歡の孤悲（こい）」。「ねむの木の子守歌」とは全く対照的な、万葉集ナウな歌になった。

1 あなたに逢いたい 全て捨てて
千年過ぎても 尽させぬ願いよ
ア～ 一番好きだった男(ひと)
青春の 溢れる想い出
ア～ 退屈な人生は 欲しくない
ときめきたいの 輝きたいの 朝・昼・夜と
いつも女は 満たされたいの
薄紅色の花 合歡の花陰



2 ドキドキするような 男(ひと)ではないが
静かに流れる 日常(くらし)が愛(いと)しい
ア～ 二番に好きだった人
結ばれて 女は幸福(しあわせ)
ア～ 美しい人生は 欲しくない

何か足りない 何か欲しい 昨日・今日・明日

震える愛よ 眩しい孤悲よ

薄紫の花 藤の花房

ア～ 退屈な人生は 欲しくない

ときめきたいの 輝きたいの 朝・昼・夜と

戸惑う心 何処に誘(いざな)う

薄紅色の花 合歓の孤悲唄



折角 1300 年前の恋歌が、現代の艶歌に改題されたのだから、早速 CD にしよう、という話になった。作曲は？ 歌手は誰に？ というので、東海林氏の作詩教室があった NHK の青山文化センターで何回か打ち合わせが行われた。東海林氏の言う「新しい流行歌、新しい艶歌」というコンセプトで、これまでの演歌の作曲家や歌手ではない、新しい人を選ぼうということになった。そこで、作曲は、東海林氏の友人の一人に頼むことになった。CD が出来上がった時のクレジットは、作曲：青山一。誰も知らない作曲家の名だ。それも当然で、青山一氏は、そもそもクラシック音楽の指揮者、作曲は初めてということで、作曲家として付けたペンネームである。青山文化センターがある青山一丁目に住んでいることから、青山一丁目さん、略して、青山一（はじめ）となったもの。「一」には、作曲は「はじめて」、という意も込めた。そして、その本名は、クラシック界で新しい音楽づくりに挑戦して、その名を知らない人はいない指揮者の大友直人氏である。

さて、問題は歌手。もちろん演歌の女王と言われる大物歌手の名前も出た。しかし、この歌は、「艶歌」ではあっても、「演歌」にはしたくない、「思い切って全くジャンルの違う人に」ということで、出てきた名前がシャンソン歌手のクミコさんだった。今は知らない人はいないけれど、当時 2010 年には、まだその名を知る人は、それほど多くはなかった。ところが、その年の NHK 紅白歌合戦に初出場することになり、一躍その名が全国に知られるようになった。そこで、伝手を頼って、「万葉の『愛の言霊』を、現代の人に向けて歌い紡いでいただきたい」と、クミコさんの事務所に申し入れをした。



すると、クミコさんから、すぐに快諾の返事をいただいた。クミコさんの音楽録音は、2011年3月13日夜、都内のスタジオで、と決まった。そして、その前々日が、あの3月11日だった。言うまでもなく、東日本大震災の日だ。記録を見ると、この日昼過ぎ、レコード会社から13日のスタジオ収録の確認のメールをもらっている。そのメールを受けた直後のことだった。東京も震度5強の激震で大揺れした後、テレビで見た、息を飲み目を疑うような光景の連続に打ちひしがれた。そんな時、再度レコード会社のディレクターから電話があり、「クミコさんが石巻市で、その大津波に遭遇、被災したらしい」という一報に驚きのあまり飛び上がった。クミコさんはたまたまこの日夜、石巻市民会館でコンサートが予定されていて、当地に滞在中だったのである。いずれにしても、携帯も繋がらないし、連絡不能という。私も、クミコさんに電話とメールをしたが、打ち返しはない。その後クミコさんサイドからレコード会社に連絡が入り、被災はしたが、どうにか命からがら逃げ延びて無事だったという。助かった！ ホットしたところで被災の状況を聞くと、クミコさんは、この日リハーサルの直前に市民会館地下の楽屋にいた時大地震が起り、かろうじてスタッフとともに裏山に登って逃れた。逃げる途中後ろを振り向くと、つい直前までいた市民会館が濁流にのみ込まれていたという。いずれにしても、明後日の13日に予定されていたスタジオは、当然中止ということになったが、クミコさん一行が、タクシーなどを乗り継いでなんとか東京に帰りついたのが、被災から2日後、録音予定日の13日夜だった。

さて、中止になった音楽録音をどうするか、ということで話し合いが行われた。実は、この「合歓の孤悲」は、CD化が決まった時、ラジオ深夜便の「深夜便の歌」に採用されて、4月1日から3カ月間、毎晩放送されることになっていた。従って、3月中には楽曲を完成させて、音源を深夜便に引き渡さなければならない。しかし、帰京後もクミコさんのショックは大きく、しばらく歌を唄える状況にないと判断し、関係者一同協議して出した結論は、「残念だけど、収録を断念せざるを得ない」だった。このような状況の中で、「恋の歌」、それも「艶歌」を歌ってもらうことは、クミコさんに対して残酷だし、被災者の方々に対して不謹慎なのでは、と考えたからだった。そこで、録音は当面中止、「深夜便の歌」はいったん返上、ということになった。そのことを事務所を通じてクミコさんに報告したところ、クミコさんの結論は違っていた。「どうしてもやる、こんな時だからこそ歌う」と、クミコさん本人が言っているという。そこで、月末ギリギリのところ、スタジオをセットしたのだが、事務所に聞いてみると、クミコさんのショックはまだ大きく、夜も眠れていないという。確かに当日スタジオに来られた時は、これで本当に歌えるのだろうかと思えるほどのやつれ様だった。しかし、マイクの前に立った瞬間、クミコさんはガラリと変わった、一変したのだ。そして、見事に「合歓の孤悲」を歌い上げた。3回の録りで、ディレクターからOKが出て、レコーディングを終了した。この日の夜、クミコさんから、ネットに次のようなブログが発信された。まさに、詩のようなブログ……文字通り、「孤（ひとり）悲しむ」、クミコさんの究極の「孤悲の歌」だ。

レコーディングしている

こんな時だけど こんな時だから ちゃんと やる

5月に出す予定の シングル 恋の歌

こんな時だけど こんな時だから 恋の歌だ 人恋しい 恋の歌

恋とかなんとか そんなのって 余裕のある時の もんだよね

そうかもしれない でも そうじゃないかもしれない

石巻の避難所で みんなに運ばれてきた おじいちゃん

呆然として 服脱がされて 全身濡れてた

そのおじいちゃん 次の日 いなくなってた

流されたおばあちゃん 探しにいった

おじいちゃんとおばあちゃん

孤悲の歌 唄いながら 思いだしてた

なんだか 思いだしてた



クミコさんが避難した
石巻市の高台

完成した「合歓の孤悲」は、予定が早まって、3月30日のラジオ深夜便から放送が始まった。とてもしっとりした、けどとても力強い艶歌になった。事情を知ったリスナーから多くの反響があった。

こうして、古の万葉集の艶歌と未曾有の大震災の今とが不思議な形で結びつき、ナウな2つの「孤悲歌」が生まれたのである。

